

安政東海地震

平成23年(2011)3月11日に発生した東日本大震災の悲しみは、私たちの記憶に深く刻み込まれています。日本人にとって、地震は忘れてはならないリスクですが、過去の記録を知ることによって将来の災害に備えることはとても重要です。

安政地震の発生

嘉永7年(1854)11月4日、遠州灘御前崎沖を震源とする安政東海地震(M=8.4)が発生しました。この翌日には安政南海地震が、翌年の安政2年(1855)10月2日には安政江戸地震が起きました。【嘉永7年11月27日に年号を「安政」に改元】



「東海道筋大地震大津波大出火図 嘉永七寅十一月四日五日之事」 (防災専門図書館蔵)

安政東海地震の被害を伝える瓦版で、吉原以西の東海道(主に宿場)の様子が記されています。

【上段一列目の内容 右から】

富士市域

- ・吉原 丸焼け
- ・不二(富士)川 水が無く歩いて渡れる
- ・岩淵 半分焼け、後は潰れる
- ・蒲原 問屋場の手前大焼け、道潰れる
- ・由井(由比) 無事
- ・興津 津浪が打ち込んだ
- ・江尻 丸焼け
- ・府中 江川町より出火し、表通りが焼けた

史料に見る市内の被害

岩松地区周辺の被害

人畜の被害は無かったが、家屋の全壊389軒、半壊67軒、その他土蔵や物置等の潰れた家は調査しきれないほど多かった。

『静岡県富士郡岩松村沿革誌』より

伝法地区周辺の被害

伝法村田端や中桁では、長さ1.8~2.7mほど地面が裂け、割れ目の幅は大きい所で30cm、小さい所で13~16.5cm位、深さは90~120cmほどの所もあった。潤井川の滝戸橋、中桁橋、五味島橋、三度橋、前田橋など大きく壊れ、五か村用水は天間村の取入れ口の堰が崩れ、厚原村の笕(水を通す樋)も壊れ日々の用水に苦労した。

『伊藤鍊次郎の手記』より

地震山の出現と富士川流路の変化

富士川より東側はくぼ地となって、川より西側は木島村下より蒲原前まで高くなった。中之郷前の川の瀬より西は地震山といわれ、川原が盛り上がり山ようになった。

『伊藤鍊次郎の手記』より

(地震山出現により)富士川の水は八分通り加島のほうへ流れていくようになり、蒲原の枳形の方へは少しの水しか流れなくなった。

『嘉永七寅年日記』より

蒲原地震山

『目で見る庵原の歴史』より転載

現在は確認できないが、明治20年測図の地形図に図示されている。



今泉地区周辺の被害

数日間は外で寝起きしたが、他地区より被害は軽く、神戸では家の倒壊や人畜の被害が1件も無かった。ただ、傾いた家は2~3軒あった。

『今泉村誌』より

吉原宿周辺の被害

吉原宿の大半が押し潰され、伝馬町から西方の石橋まで焼失した。津田村は全部押し潰され、残った家は2軒だけで、4~5人の死者も出た。

『松永家文書』より

田子浦地区周辺の被害

地盤が弱い土地の瓦葺屋根の家は被害が大きく、各所で屋根の下敷きになって死ぬ人もあった。前田村では、家屋が傾きながらも、倒壊を免れた家は2軒のみだった。

『富士郡田子浦村誌』より

